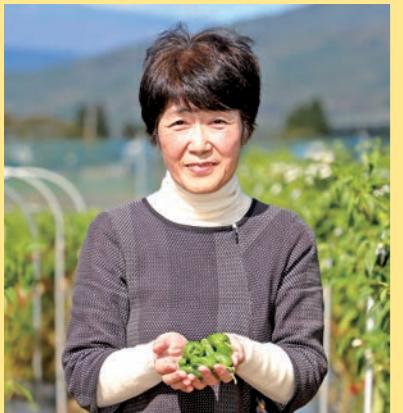


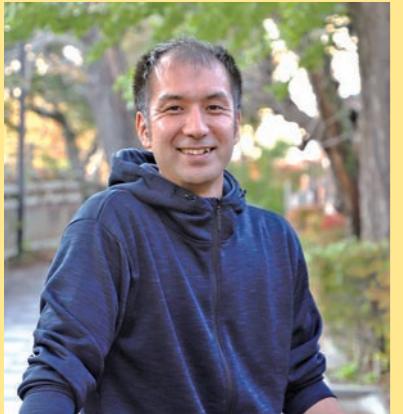


● Voice



Agritourismo 大森家  
代表

大森 友子さん(土淵町、61歳)



認定NPO法人遠野山・里・  
暮らしネットワーク  
田村 隆雅さん(中央通り、43歳)



飲食店  
経営  
新田 力さん(早瀬町、60歳)

まちの声

## 遠野のホップは人と人をつなぐ

ホップ畠がある風景やビールを求めて、年間1,000人ほどを宿泊とランチでおもてなし。ビールに合うパドロンや料理と一緒に提供しています。食卓を囲んで交わす会話にはやっぱりビール。リピーターもいて、また遠野を訪れてくれます。

ホップをきっかけに遠野を知り、好きになる——。ホップにはそういう魅力があると思います。

## 畑を巡るサイクリングツアーや、大好評です

グリーン・ツーリズムとして取り組む「里山ホップサイクリングツアー」は、2021(令和3)年から開始。都会から訪れる観光客が多いです。ツアーは、自転車で観光名所やホップ畠を探訪。ゆっくりとありのままの遠野を旅行できて満足と大好評です。

市内を回遊した後はビールで乾杯。ホップがあるからこそ、生産地を訪れてくれると思います。

## ビールを飲むために遠野を訪れます

遠野産ホップを使用した一番搾りとれたてホップ生ビールは発売当初から入荷。全国各地から発売を楽しみに待っているたくさんのお客様に来てもらっています。「今年もおいしい」、「また来年発売されたら飲みに来ます」と言われると嬉しくなります。

今年の発売が解禁されたら、市内の飲食店に来て、ぜひ皆さんで飲んでほしいなと思います。



# ホップが育む遠野のまちづくり

「ホップの里からビールの里へ」をスローガンに掲げて8年。  
市内ではイベントや飲食店、旅行などへにぎわいが広がっています。ホップを生かしたまちづくりの取り組みを紹介します。

ホップの一大産地を誇る本市。栽培開始から60周年を迎えた。市内ではホップを生かしたまちづくりや観光への取り組みが行われています。市とキリンビールは、地域活性化のため、「TKプロジェクト」を2007(平成19)年に発足。その後、2015(平成27)年に「ホップの里からビールの里へ」をスローガンに掲げ、同年から遠野ホップ収穫祭を開催しています。今年は8月19・20の両日に開催。市内外から約9000人が来場し、遠野産ホップのビールや食を楽しめました。企画運営を行った田村淳一同実行委員長は、「イベントを通じて遠野の地や遠野産ホップが皆さんにとって大切なものになってくれたら嬉しい。皆さんの応援により未来へつながっていきます。これからもホップやビールを通じて遠野のホップ栽培が盛り上がり、遠野の魅力を発信していく」といいます。同収穫祭は、ビールを味わうだけでなく、ホップ畠見学や釀造所を見学。ビールができる工程を知り、「ここ」でしか味わえない遠野を満喫します。その

後は飲食店や民泊先で遠野産ホップのビールと地元产品を堪能。市内には新たな活気がもたらされています。ホップから始まった産業振興の取り組みは、遠野のまちづくり発展に寄与。市内経済の発展や交流人口の拡大につながり、遠野ファーマンの輪が広がっています。